

2-3 環境監視結果の概要及び評価

2-3-1 大気質

(1) 環境監視の実施状況

大気質については、事業者所管の2測定局（C局、L-2局）の常時測定と大阪府所管佐野中学校局の「大阪府地域大気汚染常時監視測定データファイル」の活用により、二酸化窒素、浮遊粒子状物質などの環境監視が実施された。

測定地点を図2-3-1に示す。

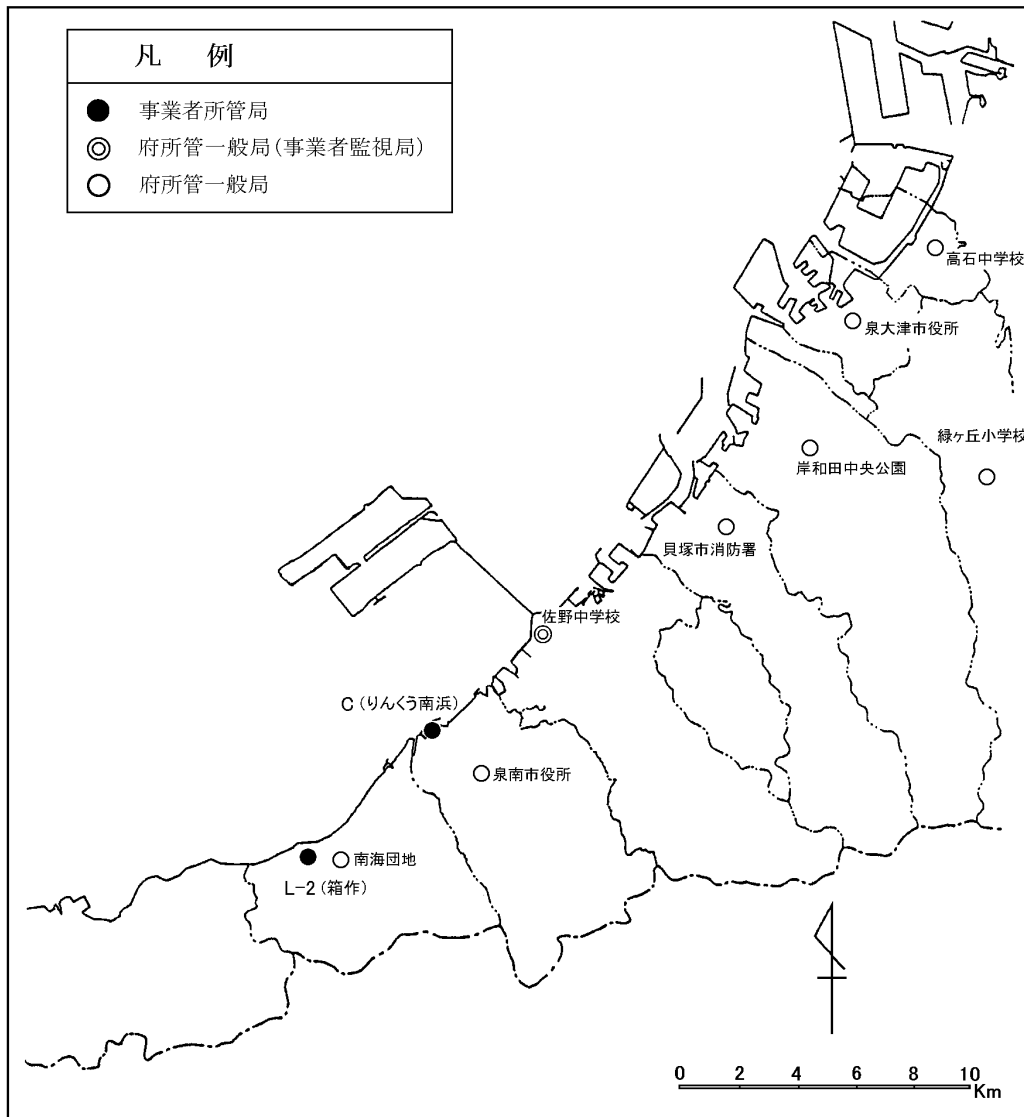


図2-3-1 大気質の測定地点

(2) 環境監視結果の概要

ア. 二酸化窒素

二酸化窒素の測定結果を表2-3-1に示す。C局、L-2局及び大阪府所管佐野中学校局では、日平均値の年間98%値は0.021~0.032ppmの範囲にあり、いずれの測定局も環境基準に適合し、管理目標も満足していた。

また、周辺の大阪府所管の一般局においても、日平均値の年間98%値が0.018~0.036ppmの範囲であり、同様に環境基準に適合していた。

なお、事業者所管の測定局で二酸化窒素濃度の日平均値が0.06ppmを超えた日はなかった。

経月変化については、図2-3-2に示すとおりで、周辺の大阪府所管の一般局と概ね同様の傾向を示していた。

表2-3-1 二酸化窒素の測定結果

所在地	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値 (ppm)	1時間値 の 最高値 (ppm)	1時間値が0.2ppm を超えた時間数 とその割合		1時間値が0.1ppm 以上0.2ppm以下 の時間数とその 割合		日平均値が 0.06ppmを超え た日数とその 割合		日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下の 日数とその割合		日平均値 の年間98% 値 (ppm)	98%値評価 による日 平均値が 0.06ppmを 超えた日 数 (日)
		(日)	(時間)			(時間)	(%)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)		
泉南市	C (りんくう南浜)	122	2870	0.011	0.061	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.028	0
泉佐野市	大阪府所管佐野中学校 (羽倉崎)	362	8583	0.012	0.080	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0.032	0
阪南市	L-2 (箱作)	122	2873	0.009	0.056	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.021	0
参考値 (大阪府所管一般局)															
高石市	高石中学校	325	7749	0.017	0.075	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0.035	0
泉大津市	泉大津市役所	359	8588	0.016	0.081	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.8	0.036	0
貝塚市	貝塚市消防署	357	8483	0.011	0.073	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.027	0
泉南市	泉南市役所	364	8580	0.012	0.073	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.028	0
和泉市	緑ヶ丘小学校	362	8550	0.008	0.060	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.018	0
岸和田市	岸和田中央公園	360	8560	0.014	0.078	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.030	0
阪南市	南海団地	360	8594	0.007	0.058	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.021	0
参考値 (大阪府所管自排局)															
泉佐野市	末広公園	363	8596	0.017	0.090	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.1	0.037	0
岸和田市	天の川下水ポンプ場	354	8470	0.023	0.092	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14	4.0	0.045	0
高石市	カモドールMBS	360	8527	0.021	0.080	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	1.4	0.039	0

(注) 1. 大阪府所管佐野中学校については、「大阪府地域大気汚染常時監視測定データファイル」を活用し、平成22年4月1日から平成23年3月31日までのデータを用いた。
2. C局とL-2局は平成22年4月1日から平成22年7月31日までのデータを用いた。

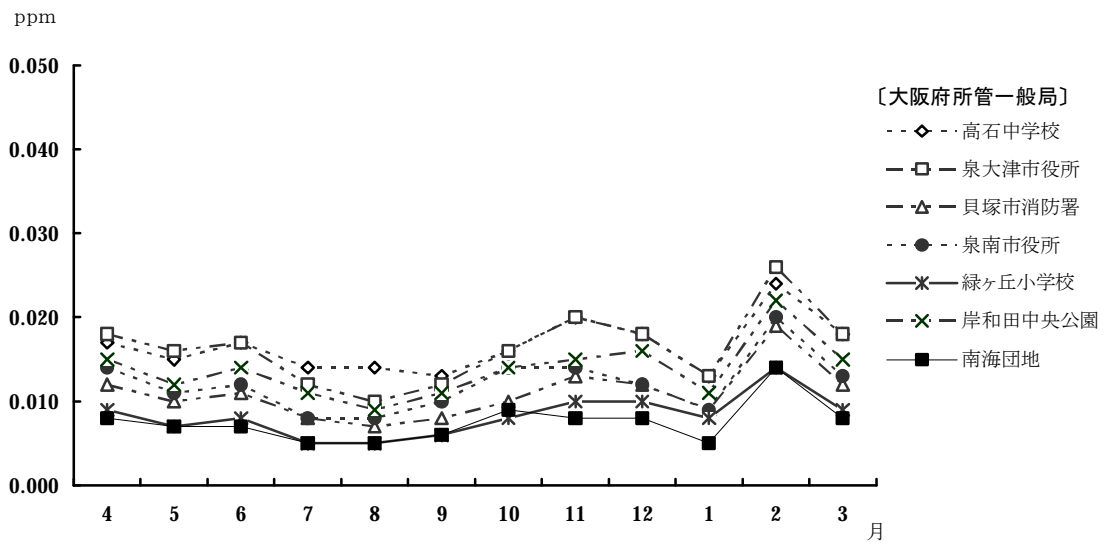
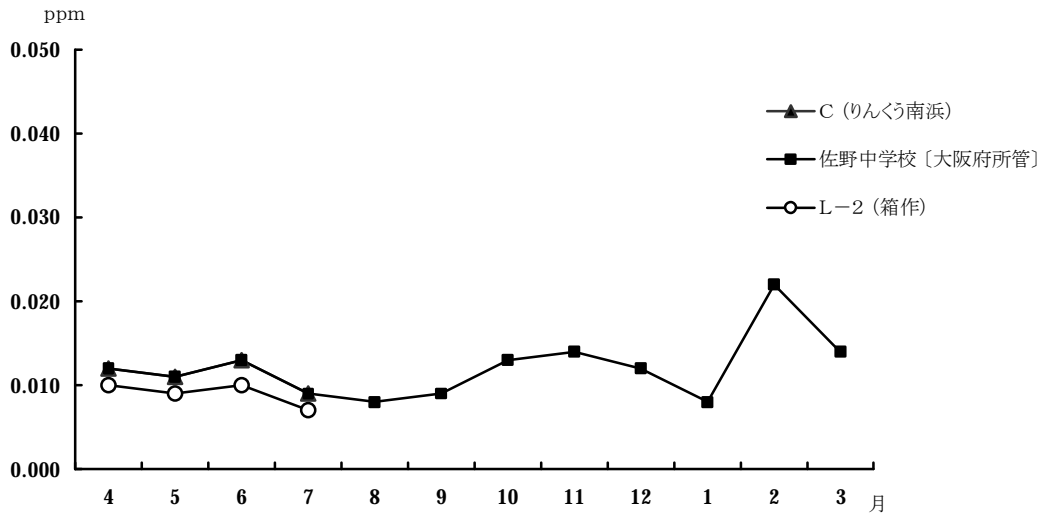


図2-3-2 二酸化窒素濃度の経月変化（月平均値）

(注) 大阪府所管佐野中学校については、「大阪府地域大気汚染常時監視測定データファイル」を活用し、平成22年4月1日から平成23年3月31日までのデータを用いた。

イ. 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の測定結果を表2-3-2に示す。1年間を通じて測定された大阪府所管佐野中学校局では、長期的評価による環境基準に適合していた。また、同局では、1時間値が0.20 mg/m³を超えた時間は無かったが、日平均値が0.10 mg/m³を超えた日が1日あり、短期的評価による環境基準に適合していなかった。C局、L-2局及び大阪府所管佐野中学校局の日平均値の2%除外値は、0.062~0.070mg/m³の範囲であった。

周辺の大阪府所管の一般局（7局）においても、全局で長期的評価による環境基準に適合していた。また、高石中学校局を除く6局で、1時間値が0.20 mg/m³を超えた時間は無かったが、日平均値が0.10 mg/m³を超えた日が1日あり、短期的評価による環境基準に適合していなかった。日平均値の2%除外値は、0.057~0.067mg/m³の範囲であった。

経月変化については、図2-3-3に示すとおりで、周辺の大阪府所管の一般局と概ね同様の傾向を示していた。

表2-3-2 浮遊粒子状物質の測定結果

所在地	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数
					(時間)	(%)	(日)	(%)				
泉南市	C (りんくう南浜)	122	2910	0.023	0	0.0	0	0.0	0.091	0.063	○	0
泉佐野市	大阪府所管佐野中学校(羽倉崎)	363	8691	0.023	0	0.0	1	0.3	0.137	0.070	○	0
阪南市	L-2 (箱作)	122	2909	0.024	0	0.0	0	0.0	0.099	0.062	○	0
参考値 (大阪府所管一般局)												
高石市	高石中学校	324	7789	0.019	0	0.0	0	0.0	0.100	0.057	○	0
泉大津市	泉大津市役所	360	8652	0.023	0	0.0	1	0.3	0.155	0.067	○	0
貝塚市	貝塚市消防署	363	8688	0.023	0	0.0	1	0.3	0.140	0.062	○	0
泉南市	泉南市役所	301	7519	0.023	0	0.0	1	0.3	0.147	0.067	○	0
和泉市	緑ヶ丘小学校	363	8697	0.022	0	0.0	1	0.3	0.148	0.063	○	0
岸和田市	岸和田中央公園	363	8691	0.021	0	0.0	1	0.3	0.139	0.058	○	0
阪南市	南海団地	363	8694	0.022	0	0.0	1	0.3	0.164	0.061	○	0

(注) 1. 大阪府所管佐野中学校については、「大阪府地域大気汚染常時監視測定データファイル」を活用し、平成22年4月1日から平成23年3月31日までのデータを用いた。
 2. C局とL-2局は平成22年4月1日から平成22年7月31日までのデータを用いた。

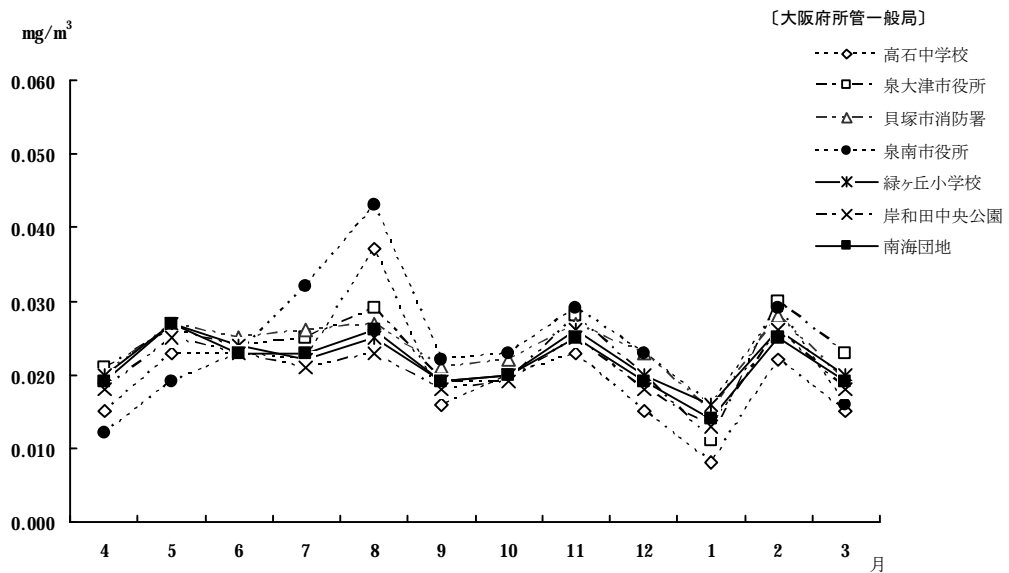
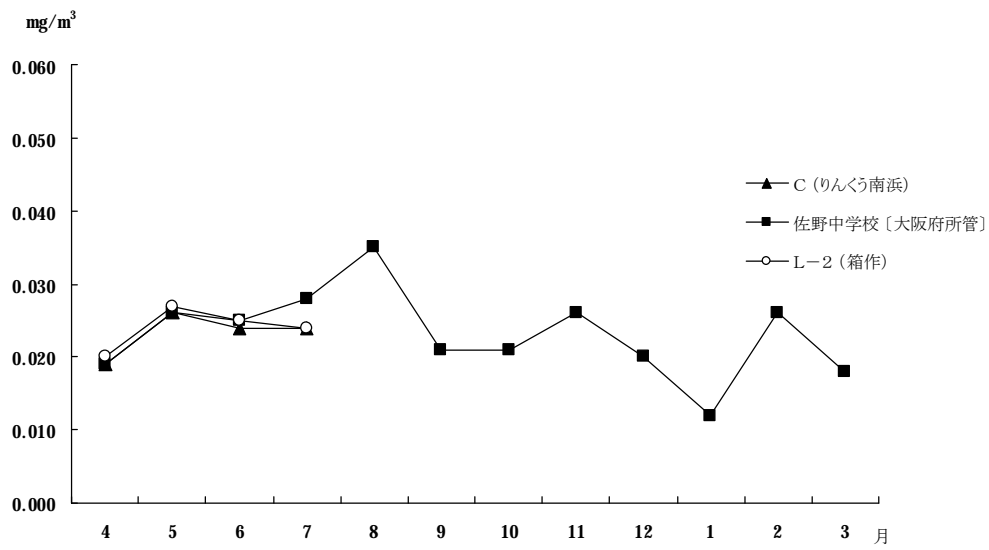


図2-3-3 浮遊粒子状物質の経月変化（月平均値）

(注) 大阪府所管佐野中学校については、「大阪府地域大気汚染常時監視測定データファイル」を活用し、平成22年4月1日から平成23年3月31日までのデータを用いた。

(高濃度解析)

事業者の監視局（3局）及び大阪府所管の一般局（7局）において、浮遊粒子状物質の日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日は平成22年11月13日の1日間であった。

大阪管区気象台を含む日本の広い範囲で、平成22年11月12日から11月15日にかけて黄砂の飛来が観測されるとともに、11月13日における窒素酸化物の濃度上昇がみられなかったことから、高濃度の原因は黄砂であると考えられる。

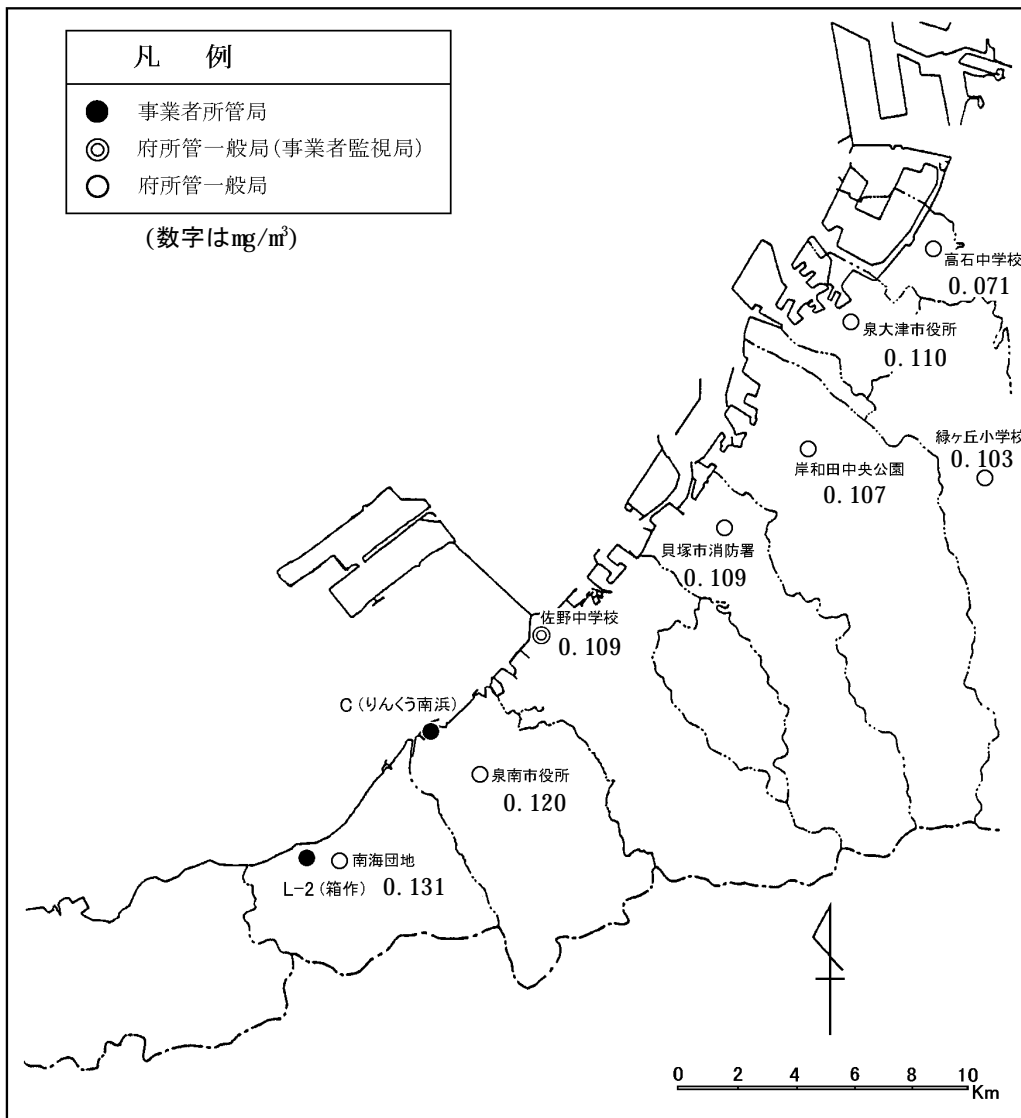


図2-3-4 浮遊粒子状物質の日平均値の分布（平成22年11月13日）

(3) 評 価

- 二酸化窒素について、全ての測定地点で環境基準に適合していた。
- 浮遊粒子状物質については、全ての測定地点で長期的評価による環境基準に適合していた。一方、日平均値が**0.10 mg/m³**を超えた日が1日あったが、黄砂による広域的な汚染の影響であると考えられた。
- 二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに、管理目標を満足していた。
- 事業者の監視局における大気質濃度は、周辺の大阪府所管の測定局とほぼ同レベルの数値であり、経月変化もほぼ同様の傾向であった。

以上のことから、事業による影響は小さく、環境保全目標を満足していると考えられる。

2-3-2 水質

(1) 環境監視の実施状況

生活環境項目、栄養塩類等の項目については空港島周辺の4点で年1回、内部水面3地点で年3回調査が実施された。測定地点を図2-3-5に示す。

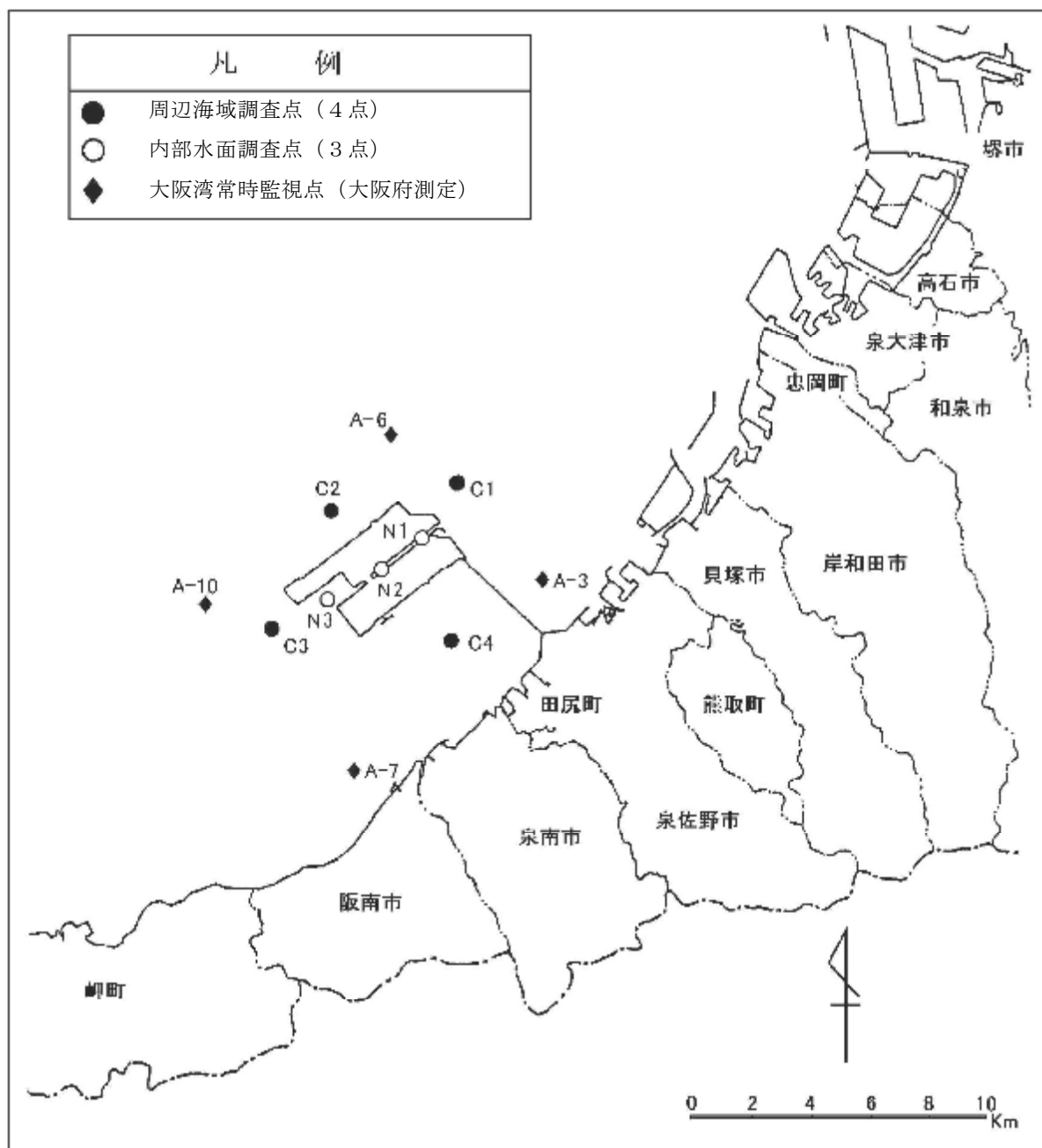


図2-3-5 水質測定地点

(2) 環境監視結果の概要

生活環境項目等の調査結果を表2-3-3に示す。また、COD、T-N及びT-Pの環境基準の適合状況を表2-3-4及び表2-3-5に示す。

COD、T-N及びT-Pのいずれについても、事業者の測定結果（空港島周辺及び内部水面）と、空港周辺海域で大阪府が実施している水質常時監視結果との間に大きな差は認められず、環境基準の適合状況においても、両者に大きな差は認められなかった。

過年度における調査結果と比較すると、概ね横ばい傾向にあり、大阪府水質常時監視結果と同様の傾向にあった。

表2-3-3 海域水質の調査結果

項目	事業		関西国際空港				大阪湾常時監視			
	測定点数		4点		3点		4点			
	区分		(C1, C2, C3, C4)		(N1, N2, N3)		(A-3, A-6, A-7, A-10)			
		最小値	～ 最大値	平均値	最小値	～ 最大値	平均値	最小値	～ 最大値	平均値
SS (mg/L)	上層	<1	～ 2	2	<1	～ 5	2	1	～ 2	2
	下層	1	～ 6	3	<1	～ 10	4	1	～ 4	3
透明度 (m)		2.6	～ 4.5	3.6	2.3	～ 10.5	4.8	3.3	～ 11.0	7.6
水温 (°C)	上層	15.7	～ 16.9	16.2	7.8	～ 29.3	17.6	7.3	～ 29.5	17.4
	下層	15.0	～ 15.2	15.1	7.6	～ 22.6	15.0	7.7	～ 24.3	15.4
塩分	上層	30.9	～ 31.5	31.1	25.2	～ 32.3	29.4	23.3	～ 32.6	29.6
	下層	31.9	～ 32.7	32.2	31.2	～ 32.4	31.8	30.8	～ 32.6	31.9
pH	上層	8.3	～ 8.3	-	8.2	～ 8.5	-	8.1	～ 8.7	-
	下層	8.2	～ 8.2	-	7.8	～ 8.3	-	7.8	～ 8.2	-
DO (mg/L)	上層	9.2	～ 10	9.5	7.4	～ 10	9.1	7.2	～ 10	8.9
	下層	7.8	～ 7.9	7.8	3.3	～ 10.0	7.1	1.2	～ 10	7.3
DO飽和度 (%)	上層	113	～ 125	117	100	～ 126	112	102	～ 126	110
	下層	94	～ 96	95	46	～ 103	82	17	～ 104	86
COD Mn (mg/L)	上層	1.7	～ 2.4	2.0	1.4	～ 3.7	2.3	1.7	～ 4.1	2.5
	下層	1.6	～ 2.1	1.8	1.3	～ 2.3	1.8	1.8	～ 2.4	2.0
T-N (mg/L)	上層	0.11	～ 0.36	0.27	0.08	～ 0.35	0.23	0.15	～ 0.60	0.33
	下層	0.11	～ 0.27	0.22	0.09	～ 0.42	0.27	0.22	～ 0.60	0.31
T-P (mg/L)	上層	0.021	～ 0.110	0.051	0.017	～ 0.044	0.030	0.011	～ 0.054	0.028
	下層	0.025	～ 0.037	0.031	0.021	～ 0.079	0.040	0.021	～ 0.110	0.037
クロロフィル (a) (µg/L)	上層	4.2	～ 8.0	5.4	0.3	～ 7.3	3.4	0.2	～ 4.6	1.5

(注) 1. 上層：海面下1m、下層：海底面上2m。ただし、大阪府測定点A-10は海底面上5m。

表2-3-4 海域水質の環境基準値との対比（その1）

項目	事業	関西国際空港						大阪湾常時監視		
		A海域 4点 (C1, C2, C3, C4)			A海域 3点 (N1, N2, N3)			A海域 4点 (A-3, A-6, A-7, A-10)		
	測定点数	最小値 ~ 最大値	平均値	m/n	最小値 ~ 最大値	平均値	m/n	最小値 ~ 最大値	平均値	m/n
区分										
pH (基準：7.8~8.3)	上層	8.3 ~ 8.3	-	0/4(100)	8.2 ~ 8.5	-	2/9(78)	8.1 ~ 8.7	-	3/12(75)
	下層	8.2 ~ 8.2	-	0/4(100)	7.8 ~ 8.3	-	0/9(100)	7.8 ~ 8.2	-	0/12(100)
DO (mg/L) (基準：7.5mg/L以上)	上層	9.2 ~ 10	9.5	0/4(100)	7.4 ~ 10	9.1	1/9(89)	7.2 ~ 10	8.9	1/12(92)
	下層	7.8 ~ 7.9	7.8	0/4(100)	3.3 ~ 10	7.1	5/9(44)	1.2 ~ 10	7.3	5/12(58)
COD (mg/L) (基準：2mg/L以下)	上層	1.7 ~ 2.4	2.0	1/4(75)	1.4 ~ 3.7	2.3	5/9(44)	1.7 ~ 4.1	2.5	7/12(42)
	下層	1.6 ~ 2.1	1.8	1/4(75)	1.3 ~ 2.3	1.8	2/9(78)	1.8 ~ 2.4	2.0	4/12(67)

(注)1. 基準とは、昭和46年環境庁告示第59号「生活環境の保全に関する環境基準」のことである。
 2. m：基準超過の検体数、n：総検体数を示す。また、()内は適合率として、総検体数に対する基準を満たした検体数の割合(%)を示す。
 3. 上層：海面下1m、下層：海底面上2m。ただし、大阪府測定点A-10は海底面上5m。

表2-3-5 海域水質の環境基準値との対比（その2）

項目	事業	関西国際空港						大阪湾常時監視		
		II海域 4点 (C1, C2, C3, C4)			II海域 3点 (N1, N2, N3)			II海域 4点 (A-3, A-6, A-7, A-10)		
	測定点数	最小値 ~ 最大値	平均値	m/n	最小値 ~ 最大値	平均値	m/n	最小値 ~ 最大値	平均値	m/n
区分										
T-N (mg/L) (基準：0.3mg/L以下)	上層	0.11 ~ 0.36	0.27	2/4(50)	0.08 ~ 0.35	0.23	2/9(78)	0.15 ~ 0.60	0.33	6/12(50)
	下層	0.11 ~ 0.27	0.22	0/4(100)	0.09 ~ 0.42	0.27	2/9(78)	0.22 ~ 0.60	0.31	3/12(75)
T-P (mg/L) (基準：0.03mg/L以下)	上層	0.021 ~ 0.110	0.051	2/4(50)	0.017 ~ 0.044	0.030	4/9(56)	0.011 ~ 0.054	0.028	5/12(58)
	下層	0.025 ~ 0.037	0.031	2/4(50)	0.021 ~ 0.079	0.040	6/9(33)	0.021 ~ 0.11	0.037	4/12(67)

(注)1. 基準とは、昭和46年環境庁告示第59号「生活環境の保全に関する環境基準」のことである。
 2. m：基準超過の検体数、n：総検体数を示す。また、()内は適合率として、総検体数に対する基準を満たした検体数の割合(%)を示す。
 3. 上層：海面下1m、下層：海底面上2m。ただし、大阪府測定点A-10は海底面上5m。

(3) 評 価

- 事業者の調査結果（空港島周辺及び内部水面）と、周辺海域で大阪府が実施した大阪湾常時監視の調査結果との間に大きな差は認められず、環境基準の適合状況においても、両者に大きな差は認められなかった。

以上のことから、事業による影響は小さく、環境保全目標を満足していると考えられる。

2-3-3 底 質

(1) 環境監視の実施状況

海域底質に係る環境監視は、COD、強熱減量、硫化物等の項目について、内部水面の3点で年3回実施された。

測定点を図2-3-6に示す。



図2-3-6 底質の測定地点

(2) 環境監視結果の概要

海域底質の測定結果を表2-3-6に示す。

CODは乾泥1g当たり0.49～23mg、強熱減量は1.7～11.8%、T-Nは乾泥1g当たり0.08～3.2mg、T-Pは乾泥1g当たり0.12～0.83mg、硫化物は乾泥1g当たり0.09～1.1mgの範囲にあった。

硫化物及びCODについては、調査点N2及びN3で、周辺海域で大阪府が実施した大阪湾常時監視地点の結果と比べ高い数値を示している時があったが、その他の監視項目については、特に大きな差は認められなかった。

表2-3-6 海域底質の測定結果

事業		関西国際空港		大阪湾常時監視		
		3点 (N1, N2, N3)		4点 (A-3, A-6, A-7, A-10)		
項目	区分	最小値	～ 最大値	最小値	～ 最大値	
		平均値		平均値		
泥温	(℃)	7.9	～ 22.3	15.0		
強熱減量	(%)	1.7	～ 11.8	6.5		
pH		7.3	～ 8.2	—		
COD	(mg/g 乾泥)	0.49	～ 23	13		
硫化物	(mg/g 乾泥)	0.09	～ 1.1	0.42		
T-N	(mg/g 乾泥)	0.08	～ 3.2	1.5		
T-P	(mg/g 乾泥)	0.12	～ 0.83	0.53		
粒度組成	礫 (2mm～)	(%)	0.0	～ 40.5	8.3	
	砂 (0.074～2mm)	(%)	0.0	～ 42.1	15.5	
	シルト分以下 (～0.074mm)	(%)	21.1	～ 100.0	76.2	

(3) 評価

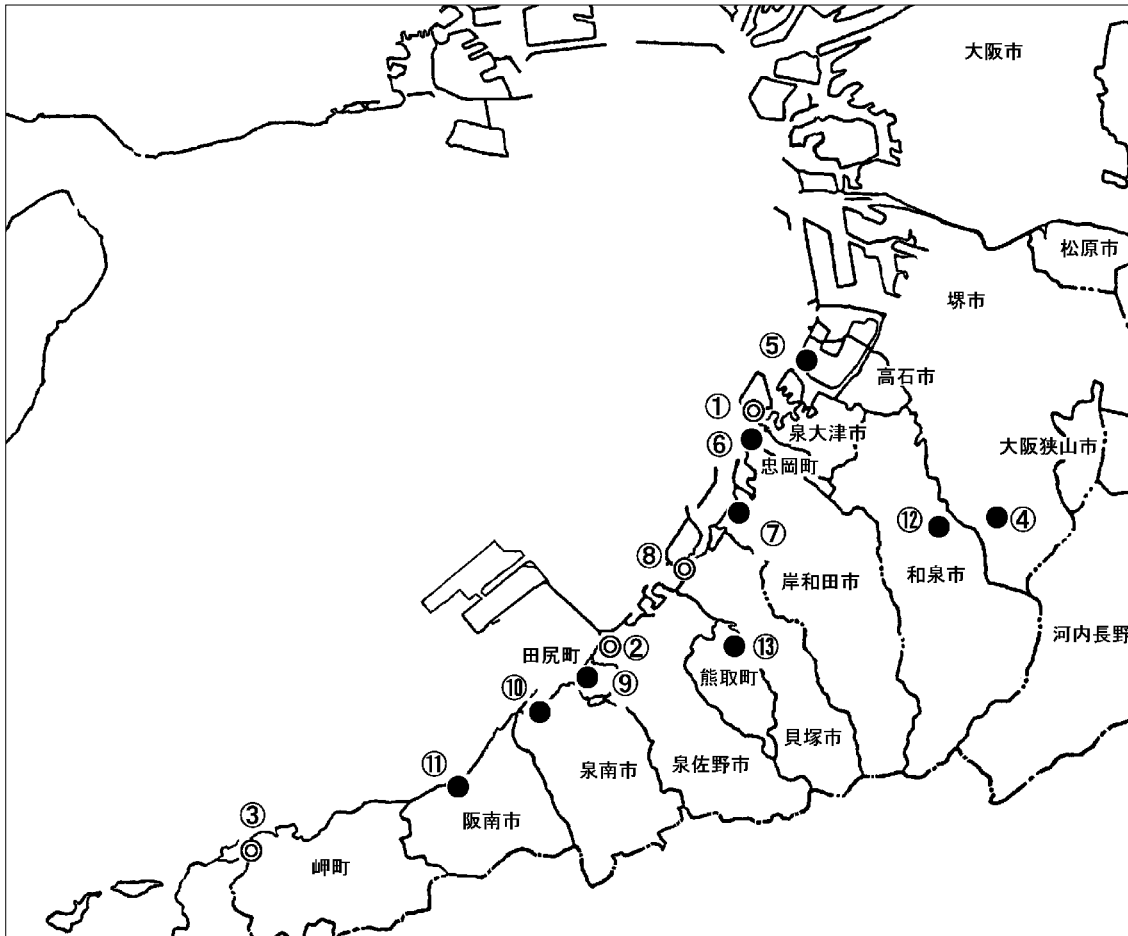
- 硫化物及びCODについては、一部で大阪湾常時監視地点の結果と比べ高い数値を示している時があったが、その他の監視項目については、特に大きな差は認められなかった。

事業による影響は小さく、環境保全目標を満足していると考えられるが、今後も引き続いて動向を見ていくことが必要と考えられる。

2-3-4 騒音・低周波音等

(1) 環境監視の実施状況

航空機騒音等に係る環境監視については、常時測定が4地点で、定期測定が9地点で年2回実施された。また、低周波音の定期測定が1地点において年1回実施された。航空機離着陸経路の6断面において、年1～2回の経路及び高度の定期測定が実施された。測定地点を図2-3-7に示す。



地点No.	所在地	地点No.	所在地
① ◎	泉大津市汐見町	⑧ ◎	貝塚市二色3丁目
② ◎	泉佐野市りんくう往来南	⑨ ●	田尻町りんくうポート南
③ ◎ ※	岬町多奈川小島	⑩ ●	泉南市りんくう南浜
④ ●	堺市南区庭代台	⑪ ●	阪南市箱作
⑤ ●	高石市高砂2丁目	⑫ ●	和泉市和田町
⑥ ●	忠岡町新浜3丁目	⑬ ●	熊取町希望が丘
⑦ ●	岸和田市臨海町		
〔凡例〕 ◎騒音常時測定点〔※：低周波音の定期測定点〕 ●騒音定期測定点			

図2-3-7 航空機騒音及び低周波音の測定地点

(2) 環境監視結果の概要

ア 航空機騒音

(ア) 常時測定結果

常時測定局における測定結果を、表2-3-7に示す。

WECPNLの各測定地点の年間パワー平均値は50未満～59の範囲にあり、全局で航空機騒音に係る環境基準に適合していた。

経年変化をみると、泉大津市汐見町、岬町多奈川小島及び貝塚市二色3丁目の地点で、WECPNL値が減少傾向となっている。これは、近年航空機の小型化が進んでいることや、B滑走路が供用開始され、着陸便の一部がB滑走路を使用することにより、ピーク値のパワー平均値が減少し、WECPNL値が減少したものと考えられる。

表2-3-7 航空機騒音の測定結果（常時測定）

測定地点		WECPNL												パワー平均値
		平成 22年									平成 23年			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①	泉大津市汐見町	<50	<50	50	<50	<50	<50	<50	<50	51	51	<50	51	<50
②	泉佐野市りんくう往来南	52	52	50	<50	50	50	55	52	53	52	54	53	52
③	岬町多奈川小島	59	59	58	56	56	56	60	60	59	58	61	60	59
⑧	貝塚市二色3丁目	53	54	52	<50	50	<50	54	52	51	50	54	54	52

(イ) 定期測定結果

定期測定結果を表2-3-8に示す。

WECPNLの各測定地点のパワー平均値は50未満～53の範囲にあり、いずれの地点においても航空機騒音に係る環境基準に適合していた。

表2-3-8 航空機騒音の測定結果（定期測定）

測定地点		WECPNL			備考
		平成22年		パワー平均値	
		6月	12月		
④	堺市南区庭代台	< 50	< 50	< 50	各月の調査日数は7日間である。
⑤	高石市高砂2丁目	< 50	—	< 50	
⑥	忠岡町新浜3丁目	< 50	< 50	< 50	
⑦	岸和田市臨海	< 50	< 50	< 50	
⑨	田尻町りんくうポート南	< 50	51	< 50	
⑩	泉南市りんくう南浜	< 50	55	53	
⑪	阪南市箱作	< 50	53	51	
⑫	和泉市和田町	—	< 50	< 50	
⑬	熊取町希望が丘	< 50	< 50	< 50	

注1) 表中の「—」は、ピークレベルが検出できなかったことを示す。

注2) 表中の「<50」は、WECPNL値が50未満であることを示す。

イ 航空機による低周波音

低周波音の測定結果を表2-3-9に示す。音圧レベルのピーク値のパワー平均値は、70dBであった。

表2-3-9 航空機による低周波音の測定結果

測定地点	低周波音のピーク値のパワー平均値
	平成22年
	6月
岬町多奈川小島	70

(注) 低周波音：1/3オクターブバンド中心周波数1～80Hzの音圧レベル

ウ 航空機の経路及び高度

航空機の経路及び高度の調査実施状況を表2-3-10に示す。小島断面（離陸、着陸）、高石断面（着陸）及び岸和田断面（離陸、着陸）において年1回、貝塚断面（離陸、着陸）において年2回実施された。それぞれの断面における調査結果を図2-3-8(1)～(6)に示す。

着陸では、直線進入する南西からの場合（小島断面）は、水平方向、垂直方向ともに大きなばらつきは見られなかった。旋回進入する北東からの場合、高石断面では水平方向のばらつきが見られたが、岸和田断面では大きなばらつきは見られなかった。B滑走路着陸の場合は、A滑走路着陸経路の2300m程度沖側に着陸経路が確認された。

離陸では、いずれの方向への出発でも、水平方向、垂直方向とも着陸に比べてばらつきが見られた。

貝塚断面では、全てA I P（航空路誌）に規定されている最低高度である8,000フィート以上を確保していた。

表2-3-10 調査断面と調査月（経路及び高度）

No.	調査断面	区分	H22.6月	H22.12月
1	小島断面	離陸	○	
2	同上	着陸	○	
3	高石断面及び岸和田断面	着陸	○	
4	岸和田断面	離陸	○	
5	貝塚断面	離陸	○	○
6	同上	着陸	○	○

(3) 評価

航空機騒音は全ての測定局及び測定地点で環境基準に適合しており、環境保全目標を満足していると考えられる。

観測日：平成22年 6月15日～17日

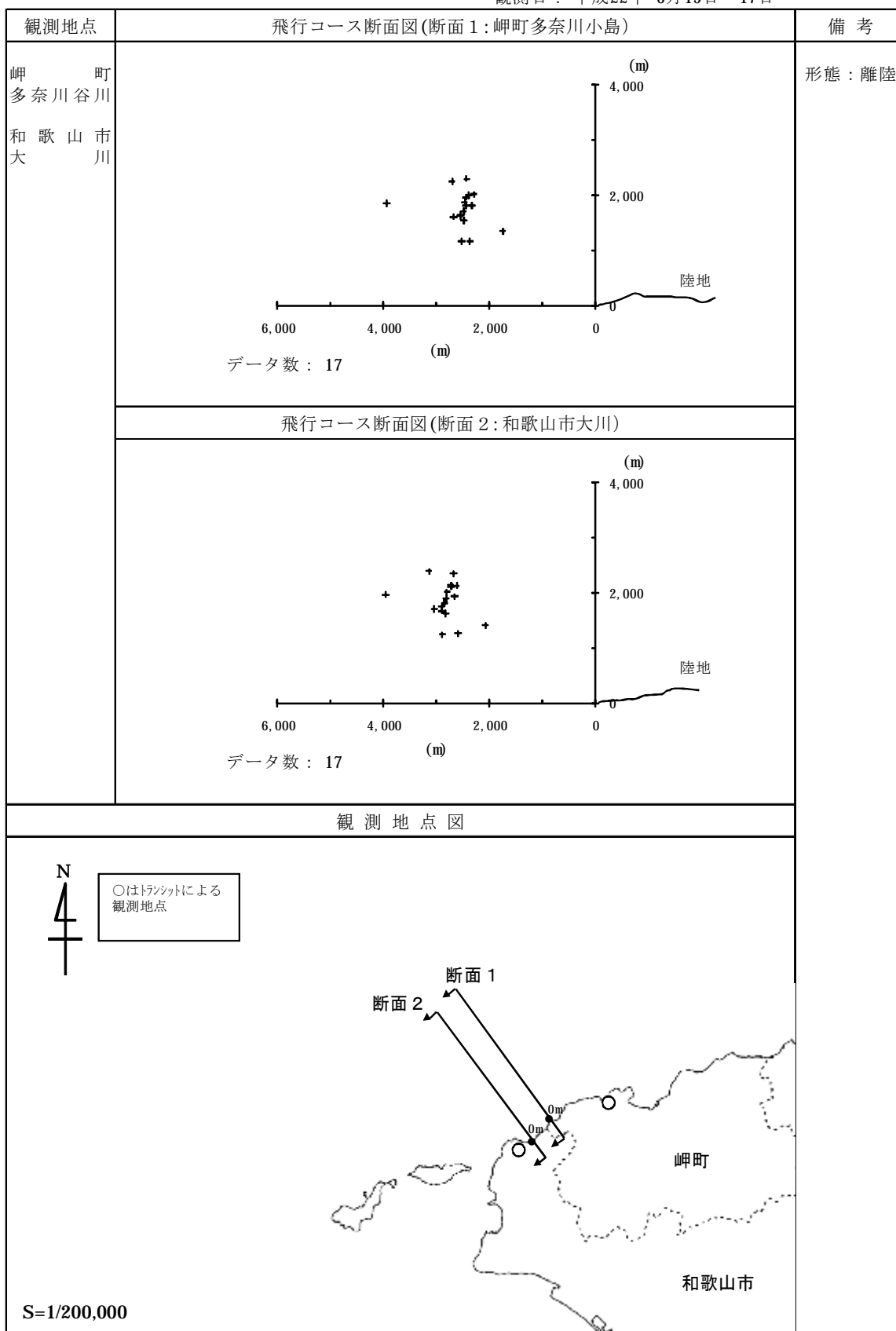


図2-3-8(1) 航空機飛行コースの観測結果

観測日：平成22年 6月15日～17日

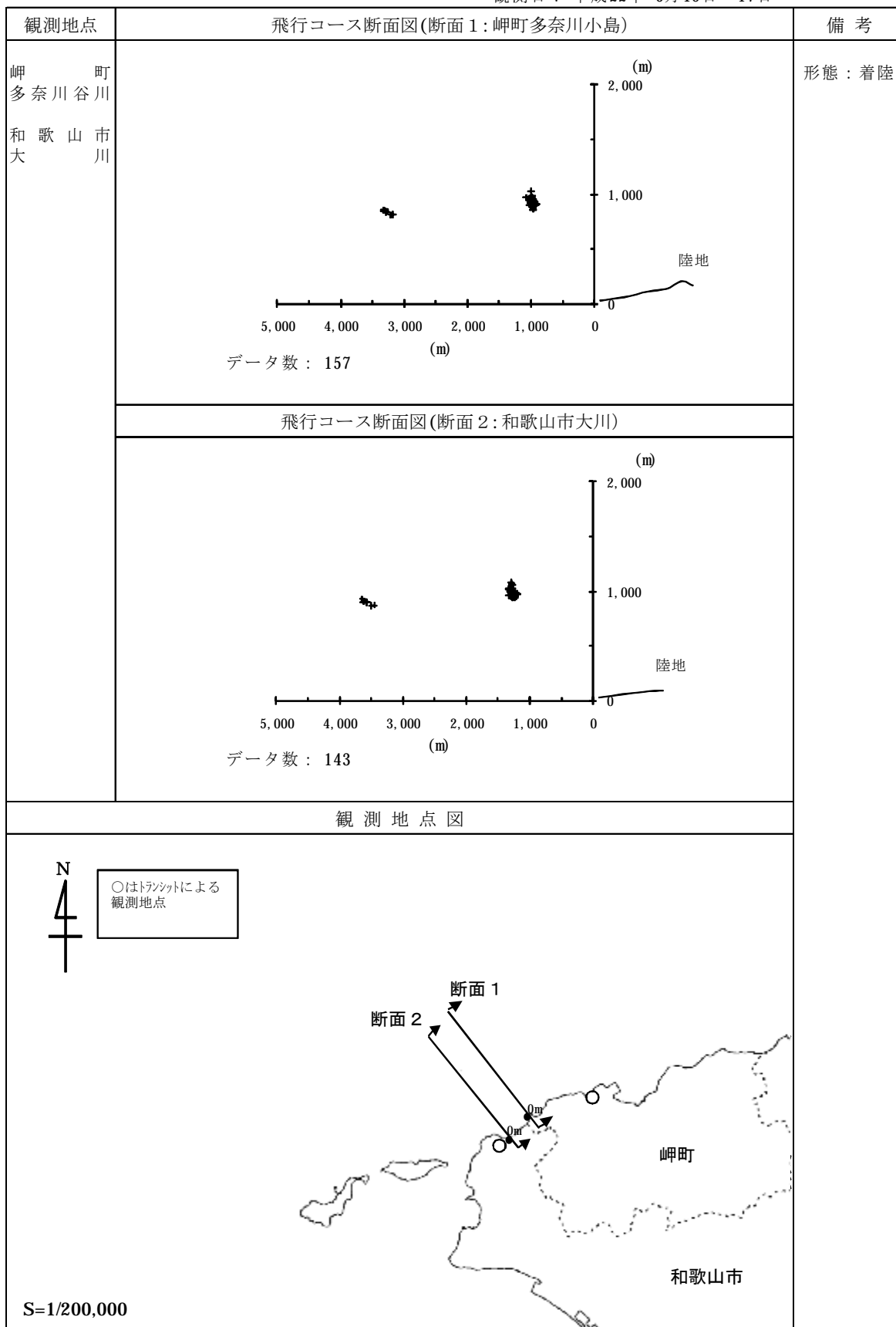


図2-3-8(2) 航空機飛行コースの観測結果

観測日：平成22年 6月22日～24日

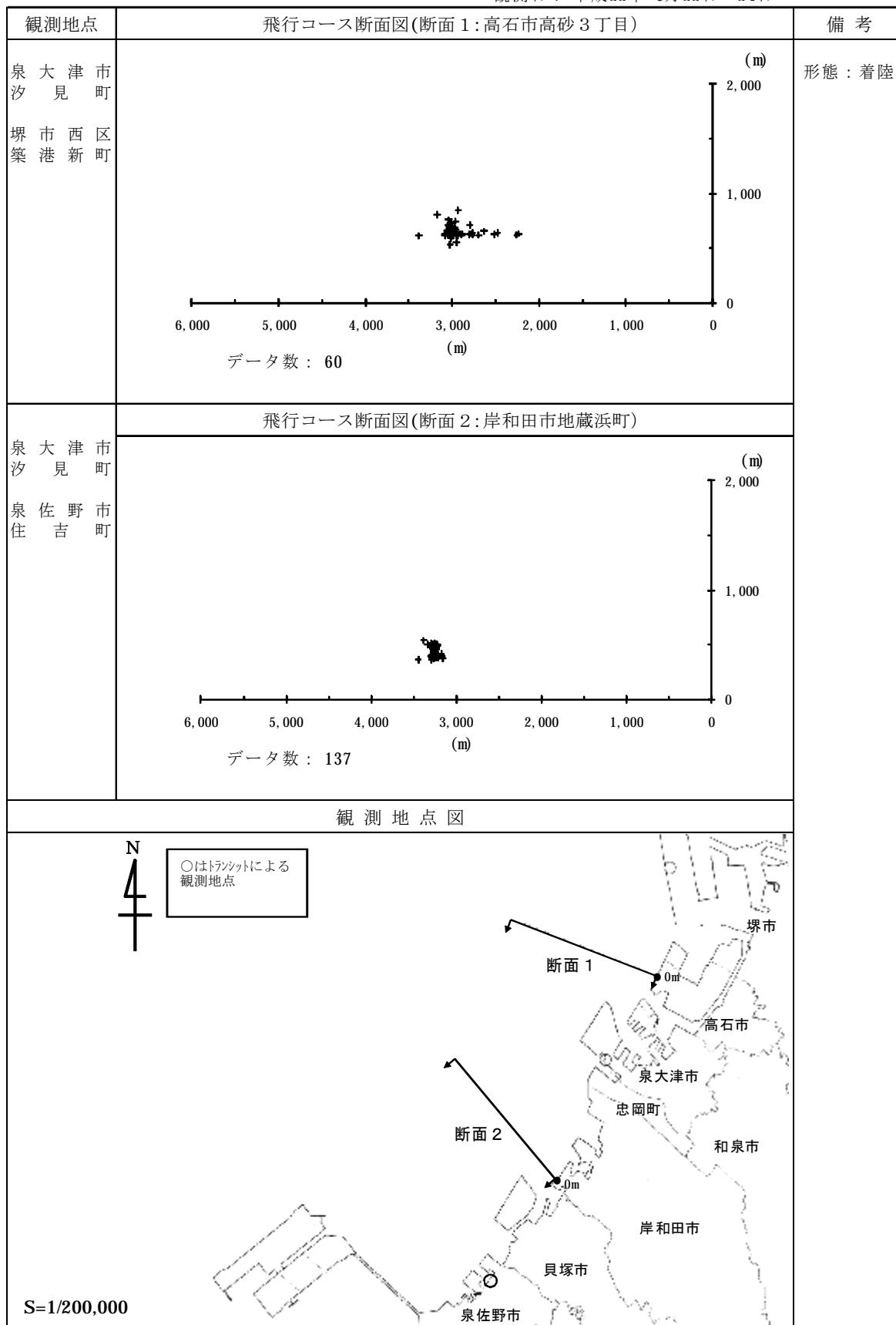


図2-3-8(3) 航空機飛行コースの観測結果

観測日：平成22年 6月22日～24日

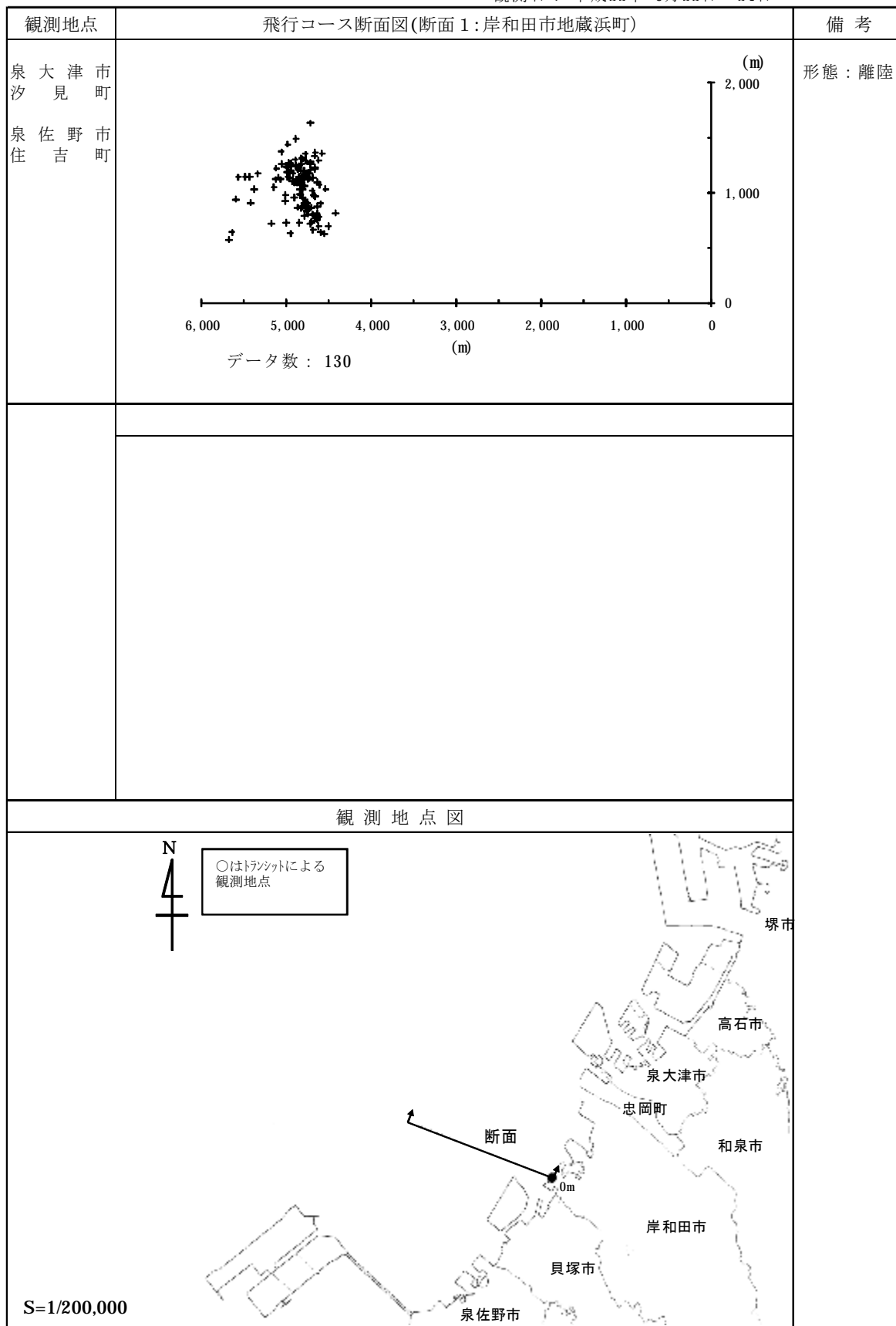


図2-3-8(4) 航空機飛行コースの観測結果

観測日：平成22年 6月 8日～10日

平成22年12月21日～23日

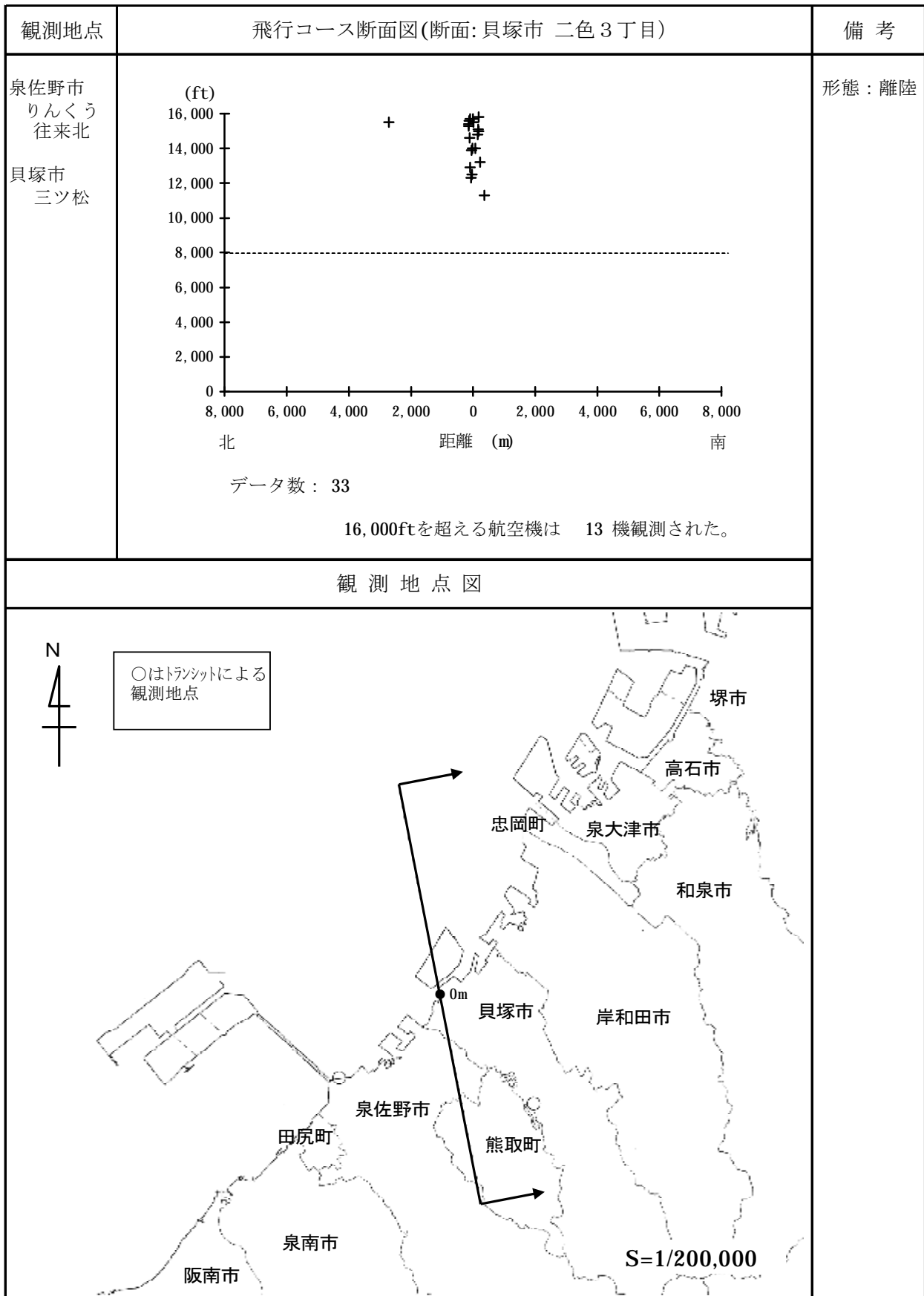


図2-3-8(5) 航空機飛行コースの観測結果

観測日：平成22年 6月 8日～10日

平成22年12月21日～23日

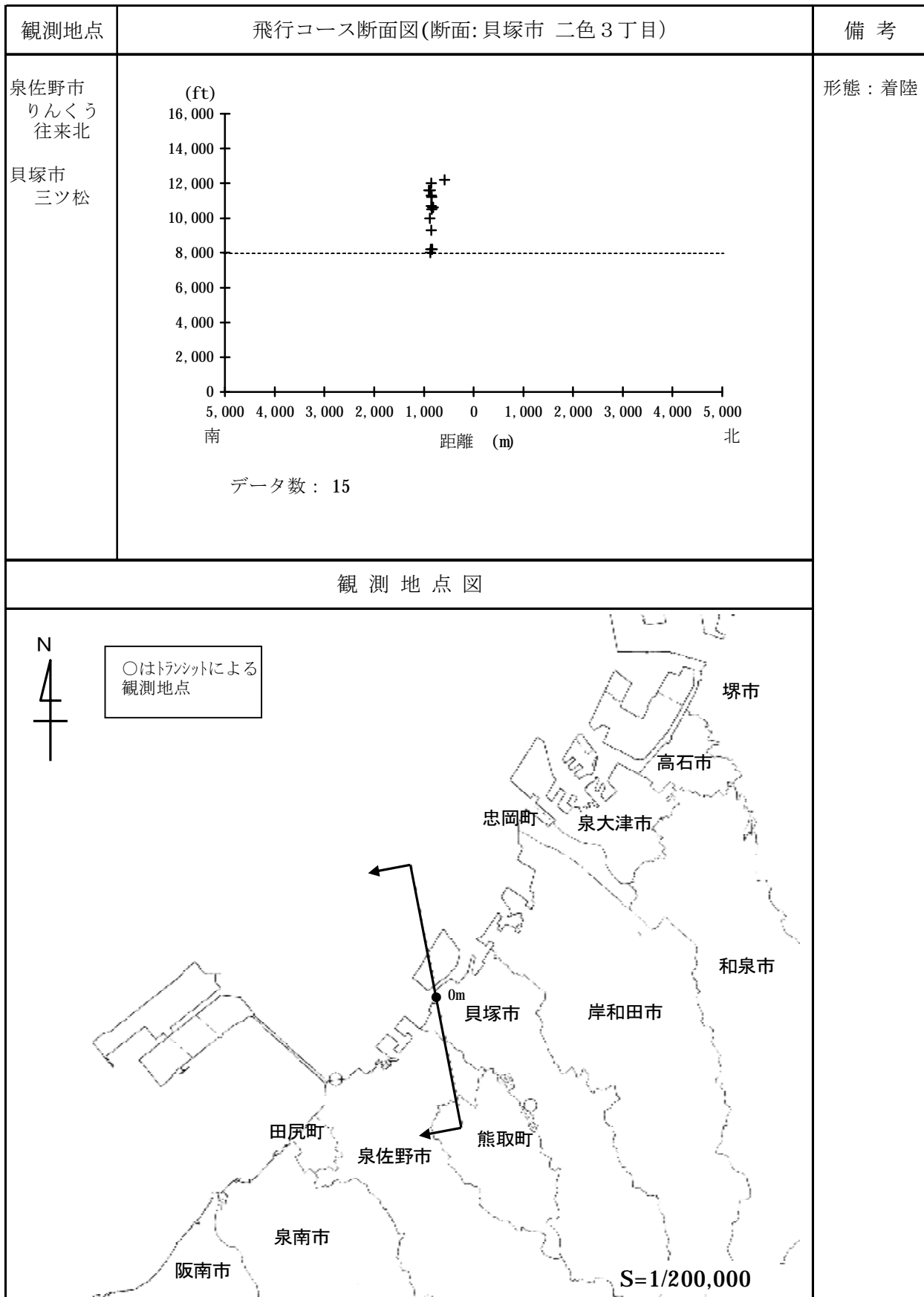


図2-3-8(6) 航空機飛行コースの観測結果

2-3-5 海域生物

(1) 環境監視の実施状況

海域生物に関する環境監視については、空港島周辺の4地点において底生生物と漁業生物を年1回調査した。

また、内部水面の3地点において底生生物を年3回、2地点において植物プランクトンと動物プランクトンを年1回調査した。

調査地点を図2-3-9に示す。

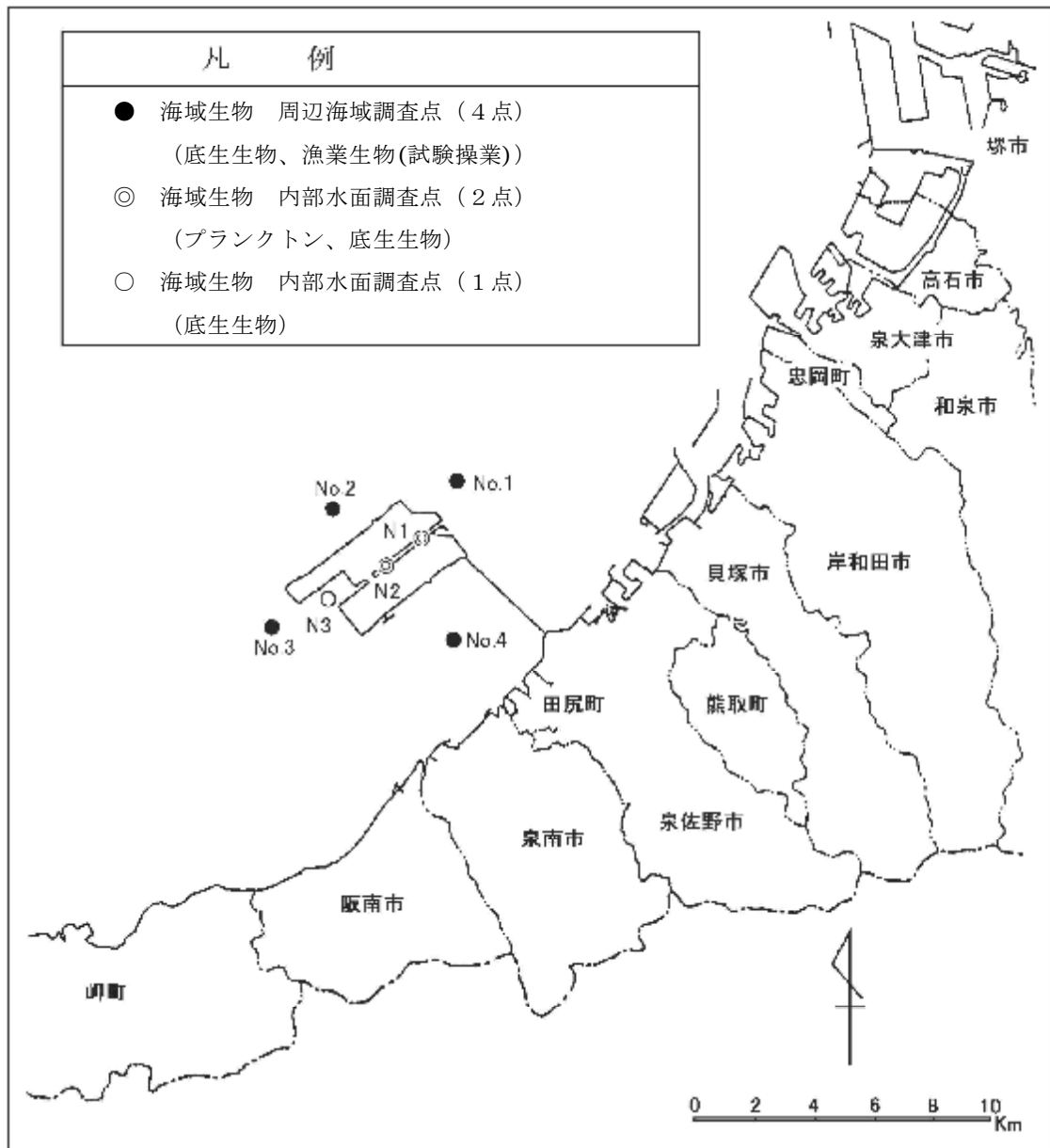


図2-3-9 海域生物の調査地点

(2) 環境監視結果の概要

ア. プランクトン

(ア) 植物プランクトン

内部水面において5月に確認された植物プランクトンの総種類数は**32種**で、主要種はスケトウコスタム、レプトキリトリス ダニクス等で、これらはいずれも内湾・沿岸域で普通に見られる種であった。

(イ) 動物プランクトン

内部水面において5月に確認された動物プランクトンの総種類数は**26種**で、主要種は橈脚亜綱のノブリス期幼生、オヒケ属のコホダケ期幼生等であった。これらはいずれも内湾・沿岸域で普通に見られる種であった。

イ. 底生生物

空港島周辺において春季に確認された底生生物の総種類数は**71種**で、主要種はシズクガイ、星口動物門の一種等であった。

内部水面において確認された底生生物の総種類数は**74種**で、季節別では5月が**45種**、8月が**39種**、2月が**42種**であった。主要種はカマガリギボシソメ、シズクガイ、タケソコガイ科の一種、星口動物門の一種等であった。空港島周辺、内部水面とも、主要種はいずれも内湾・沿岸域で普通に見られる種であった。

ウ. 漁業生物

5月に確認された漁業生物の総種類数は**13種**で、主要種はマコガレイ、メタガレイ等で、これらはいずれも内湾・沿岸域で普通に見られる種であった。

(3) 評価

いずれの調査項目においても、内湾・沿岸域で普通に見られる種が確認され、経年的にみて全体としても大きな変化が見られなかったことから、事業による海域生物への影響は小さく、環境保全目標を満足していると考えられる。